東京ハ開化進歩も速やからんと思の外今ホ大間抜あり虚言ホハいらぬ木所荒井町中島屋の産人橋立庄吉なる者六月八日まゴ午前の十一時新吉原京町の石野和助ゴ楼上ホ酒宴の興も夜と遠ひ何とおく薄けれバ二時頃ホらさや閨房ホ入り夫婦ホ

おらふ
ヒきぉ
ぉん
らん

香りとふりと頬りホセまれど娼妓小櫻ハてもつのぬ挨拶ホ男ハグワと取のだゼ在うホ刺刀取うり早く已ゴ咽喉を横ヘハ分深さ二分程傷付たと出んと痛癪ホも程ゴのる双方承知で相死をホるさへ馬鹿の大関ハいふ

△ア、ちるか獨自ら傷付て醜名を江湖ホ流すハ自知の勸進元ハいえ欲世間の若衆ゴ鑒るべしと。

○真事誌百二十八号ニ出たり

新聞圖會 第世号

ゴ聞圖會

八尾善板